

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25381028

研究課題名(和文)シュタイナー教育の今日的意義 - 能力概念に基づく国際調査

研究課題名(英文)Contemporary Significance of Steiner Education - International Investigation Based on Capability Concept

研究代表者

衛藤 吉則 (Eto, Yoshinori)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：60270013

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、「能力」概念に着目した国際調査を通して、シュタイナー教育の現代的な意義を論証することにある。本研究の成果として、『シュタイナー教育思想の再構築 - その学問としての妥当性を問う』(ナカニシヤ出版、2018年)を出版した。そこでは、シュタイナー教育思想の成立背景と実践的特徴を確認したうえで、「教育学」「科学」「哲学」で論じられる学問的な概念に照らしてシュタイナー教育の理論・実践の妥当性を明らかにした。とりわけ、シュタイナー教育学が新たなWissenschaft(科学・学問)の可能性を有し、「生きる力」や「コンピテンシー」の育成に貢献しうることを論証した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to demonstrate the contemporary significance of Steiner education through international research focused on the concept of "ability". As a result of this research, we published "Reconstruction of Steiner Educational Thought - Validity as its Science" (Nakanishiya Publishing, 2018). Then, after confirming the background and practical features of Steiner educational thought, the validity of the theory and practice of Steiner education is clarified in light of the academic concepts discussed in "pedagogy", "science" and "philosophy". In particular, we demonstrated that Steiner Pedagogy has the possibility as a new Wissenschaft (science and academic) and can contribute to the development of "living ability (zest for living)" and "competency".

研究分野：教育哲学

キーワード：シュタイナー 生きる力 コンピテンシー

1. 研究開始当初の背景

本研究が目的とする「シュタイナー教育の学校調査」については、これまで国内外で、アビトゥーア試験の成績や卒業生の進路・学校観・生活観に焦点を当てた以下の先行研究がある。しかし、以上の研究は、主としてアビトゥーアやシュタイナー学校卒業生の進路・学校観に焦点を当てたものであり、シュタイナー教育の理論・実践の全体像を示し得ていない。さらに、後者の学校調査においては対象が欧米先進国のシュタイナー学校卒業生に限定されるため（進路に関しては全米データとの比較はあるが）、教育内容・方法の一般的な妥当性や日本への受容可能性を吟味するには不十分といえる。それに対して本研究では、調査対象を、先進国・途上国・日本の小中高校生とし、調査内容を全ての教育内容・方法と獲得能力とし、学校種も、シュタイナー学校に、一般の公立学校や他の私立学校、公立学校内のシュタイナー教育コースを加え、多角的な比較調査を行うことが特徴である。こうしたグローバルな比較調査によって、シュタイナー教育の特殊性と有効性が有意な形で示しうるものとする。加えて、能力概念に焦点を当て、理論（認識論等）と実践（方法論等）との架橋を試みる総合的な研究は国内外で皆無であり、本研究が嚆矢といえる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、閉塞する学校教育の「救い主」として世界的な注目を集めるシュタイナー教育について、その今日的意義を「能力」概念に着目し、理論・実践の両面から論証することにある。具体的には、その教育の根底に置かれる原理（認識論等）と実際の教育方法・内容ならびに達成される能力との有機的な連関をグローバルな規模のアンケート調査によって解明していく。調査の対象は、国内外の初等・中等教育に属するシュタイナー学校と一般の学校の生徒ならびに教員とする。本研究を通して、今日的な能力概念である「キー・コンピテンシー」（OECD）とシュタイナー的能力概念との共通点と相違点が解明され、わが国が進める「生きる力」の育成に貢献する具体的な実践的なオルターナティブとしての教育の在り方を提示するものである。

3. 研究の方法

まず、平成25年度には、今日的な能力概念である「キー・コンピテンシー」（OECD）とわが国の「生きる力」の各概念を分析し、その構造特徴を明らかにする。そのために、OECDのプログラムである「コンピテンシーの定義と選択（DeSeCo: Definition and Selection of Competencies）」の最終報告であるPISA 2003 Assessment Framework, OECD 2003.ならびにその後の報告PISA 2009 Assessment Framework Key

Competencies in Reading, Mathematics and Science, OECD 2009、さらには、文部科学省による中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（平成8年）、「我が国の高等教育の将来像」（平成17年）内閣府人間力戦略研究会の「人間力戦略研究会報告書」（平成15年）、中央教育審議会教育課程部会「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」（平成19年）等の関連記述の分析を通して、今日的な能力概念を描出する。加えて、シュタイナーによって教育上重視される能力概念を導出するために、彼の関連著作、*Erziehung des Kindes vom Gesichtspunkte der Geisteswissenschaft*, Dornach 1907. *Anthroposophie, Psychosophie, Pneuma to Sophie*, Dornach 1931, *Allgemeine Menschenkunde als Grundlage der Paedagogik*, Dornach 1932等を分析する。

平成26年度は、平成25年度の研究から判明する、教育上期待される「今日的な能力」（キー・コンピテンシー、生きる力）と「シュタイナー的能力」に着目し、そうした能力の獲得程度を検証するためのアンケートを作成する。具体的に、アンケートは、知（思考）・情（感情）・意（意志）・体（身体）・徳（価値観）・社会性という指標に対して、人生観、職業観、学校観、獲得能力、健康、家庭・社会の側面を問うパラメーター構成とする。しかも、各問いは、シュタイナー教育の根底に置かれる原理（認識論・人間観・世界観）と実際の教育方法・内容ならびに達成される能力との有機的な連関を組み込んだ内容とする。

平成28年度は、アンケート調査を、先進国（オーストラリア）・途上国（フィリピン）・日本の小・中・高校のシュタイナー学校ならびにその他の私立（モンテッソーリ学校を含む）・公立学校で実施する。

最終年度の平成29年度は、以上の理論・実践研究を整理し、その成果を著作・論文に著し、シュタイナー教育の理論・実践の学問的妥当性と現代的意義、そして日本への適応可能性を明らかにする。

4. 研究成果

本研究の目的は、閉塞する学校教育の「救い主」として世界的な注目を集めるシュタイナー教育について、その今日的意義を「能力」概念に着目し、理論・実践の両面から論証することにあつた。

本研究の成果は、理論研究と比較研究として整理された。

まず、シュタイナー教育の理論研究論文としては、「シュタイナー教育思想の哲学的基盤（1）「哲学的考察の原点」としてのカント的認識論」『HABITUS』（17巻、45-59頁、2013年）、「シュタイナー教育思想の哲学的基盤（2）「哲学的考察の原点」としてのカント的認識論」『HABITUS』（18巻、101-114

頁、2014年)「シュタイナー教育思想の哲学的基盤—ゲーテと E.ハルトマンの認識論」『倫理学研究』(22号、1-19頁、2014年)「シュタイナー教育思想の哲学的基盤(3) フィヒテの自我論の受容と克服」『HABITUS』(19巻、35-49頁、2015年)「シュタイナー教育思想の哲学的基盤(4) —「精神」と「自由」の獲得に向けたヘーゲルの認識論(前半)」『HABITUS』(20巻、17-30頁、2016年)「シュタイナー教育思想の成立背景と実践的特徴」『倫理学研究』(23号、13-30頁、2016年)「シュタイナー教育思想の哲学的基盤(4) —「精神」と「自由」の獲得に向けたヘーゲルの認識論(後半)」『HABITUS』(21巻、17-26頁、2017年)として著わされた。

また、シュタイナー教育の比較研究としては、「中国に灯されたシュタイナー教育の炎—移入のプロセスと展望」『倫理学研究』(21号、79-101頁、2013)ならびに「Holistic Paradigm Common to Educational Thought of R. Steiner and M. Montessori Questionnaire for School Investigation, in: Ringaku-Kenkyu, vol. 24, pp.103-121, 2013」として著わされた。理論7本、実践2本の合計9本の論文が本研究の成果として刊行された。

さらに、本研究の集大成としては、単著『シュタイナー教育思想の再構築—その学問としての妥当性を問う』(ナカニシヤ出版、2018年1月)が出版された。そこでは、シュタイナー教育思想の成立背景と実践的特徴を確認したうえで、従来の「教育学」「科学」「哲学」で論じられる学問的な概念に照らしてシュタイナー教育の理論・実践の妥当性を明らかにした。とりわけ、本研究でとりあげたシュタイナー教育の方法と内容が新たなWissenschaft(科学・学問)の可能性を有し、わが国の「生きる力」や国際的な「コンピテンシー」の育成に貢献しうることを論証した。

加えて本研究成果は、すでに教育学領域で注目され、この4月27日には大阪府立大学からの招待講演(公開講座)において、「シュタイナー教育の実践的意義と学問的妥当性」というタイトルで講演することが決まっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

衛藤吉則、シュタイナー教育思想の哲学的基盤(4)—「精神」と「自由」の獲得に向けたヘーゲルの認識論(後半)、HABITUS、査読有、21巻、17-26、2017。
衛藤吉則、シュタイナー教育思想の成立背景と実践的特徴、倫理学研究、査読有、23号、13-30、2016。

衛藤吉則、シュタイナー教育思想の哲学的基盤(4)—「精神」と「自由」の獲得に向けたヘーゲルの認識論(前半)、HABITUS、査読有、20巻、17-30、2016。
衛藤吉則、シュタイナー教育思想の哲学的基盤(3)—フィヒテの自我論の受容と克服、HABITUS、査読有、19巻、35-49、2015。

衛藤吉則、シュタイナー教育思想の哲学的基盤—ゲーテと E.ハルトマンの認識論、倫理学研究、査読有、22号、1-19、2014。

衛藤吉則、シュタイナー教育思想の哲学的基盤(2)「哲学的考察の原点」としてのカント的認識論、HABITUS、査読有、18巻、101-114、2014。

Yoshinori ETO, Holistic Paradigm Common to Educational Thought of R. Steiner and M. Montessori Questionnaire for School Investigation, In: Ringaku-Kenkyu, vol.24, pp.103-121, 2013. 査読有。

衛藤吉則・孫月馨、中国に灯されたシュタイナー教育の炎—移入のプロセスと展望、倫理学研究、査読有、21号、79-101、2013。

衛藤吉則、シュタイナー教育思想の哲学的基盤(1)—「哲学的考察の原点」としてのカント的認識論、HABITUS、査読有、17巻、45-59、2013。

〔学会発表〕(計5件)

衛藤吉則、Julika Griem Peter Strohschneider、山本陽介、草原和博、人文社会科学の影響:日独討論、2017年11月15日、ドイツ研究振興協会 DFG、広島大学。

衛藤吉則、平幸福と感情を考えるための一つの理論枠組みとしての「特殊即普遍」のパラダイム、広島大学・高麗大学共同国際学術大会、2016年11月25日、招待、高麗大学哲学研究所、高麗大学。

衛藤吉則、竹田敏彦、越智貢、宮里智恵、堀江信之、上村崇、シンポジウム「学習指導要領一部改正に伴う『特別の教科道徳』に向けて」、学校と道徳教育研究会、2016年8月2日、招待、広島大学。

衛藤吉則、私たちはいま教育にどう取り組めばよいか、シュタイナー研究会、2015年6月13日、招待、広島大学。

衛藤吉則、道徳の時間の教科化について、学校と道徳研究会、2013年8月、招待、広島大学。

〔図書〕(計4件)

衛藤吉則、ナカニシヤ出版、シュタイナー教育思想の再構築—その学問としての妥当性を問う、2018、305

衛藤吉則、広島大学出版会、西晋一郎の思想—広島から「平和」を問う、2018、

213

衛藤吉則他訳、萌書房、フィリップ・キ
ャム著、子どものための哲学、2017、178
衛藤吉則、御茶の水書房、松本清張にみ
るノンフィクションとフィクションのは
ざま「哲学館事件」(『小説東京帝国大学』)
を読み解く、2015、200

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 衛藤吉則(ETO, Yoshinori)
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号:60270013

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：

(4) 研究協力者
()